

公益社団法人 日本青年会議所	
関東地区 茨城ブロック協議会	
組織改革推進会議 議長 大島 研也	
現 状 分 析	多くのL O Mで会員減少が見られ、消滅の危機に直面しているL O Mもあり、近年IT技術の進化等によりJ C自体の在り方も変わる時期にあるなかで、未来を担う若手や女性が活躍する社会になっていく必要があります。
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> ■会員がJ C運動に参加し易い環境整備がされブロックが1, 0 0 0名体制になっている状態 ■2 0代、女性会員数が前年度比5 0 %増で所属し高い意識で行動するようになっている状態 ■業種別部会を通してL O M同士が垣根を越え、候補者が入会につながりやすくなった状態 ■ブロックとL O Mがコミットし地域にあった巻き込み型の会員拡大が展開されている状態 ■時代背景に合った団体となり、さらには社会の先頭を走る団体となる状態
連 携 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ■組織改革推進の実施 会員がよりJ C運動に参加しやすい環境の整備をするために、ブロック協議会一丸となり各L O Mに対して組織改革を提案・支援します。 ■地域のリーダーとなる人財の育成事業の実施 2 0代、女性会員といった貴重な層のJ C運動へ対する意識をより高め、さらには若手や女性がJ Cに入会するきっかけにもつなげます。 ■茨城ブロック協議会版業種別部会の設置の実施 ビジネスの観点からも拡大に取り組みより成果を上げるために、業種別部会を設けL O Mと部会が情報共有をし、J Cの入会へつながりやすくするシステムを構築します。 ■県内各L O Mの拡大支援・協力および拡大に繋がる情報の共有の場として拡大会議の実施 各L O Mで地域に合った巻き込み方を取り入れて拡大活動を展開していくために、理事長を中心に各L O Mと拡大会議を開催します。 ■いばらきJ C宣言の検証および改定の実施 世の中の価値観が変化してきている中でより時代背景に合った団体となるために、現行のいばらきJ C宣言を検証し新しいいばらきJ C宣言に改定します。 ■柔軟かつ開放的な組織改革を行うための事業の実施 2 0代や女性から魅力的なビジネスに繋がる組織になるために、日本J Cから降りてきた改革プランを組み合わせることでブロック協議会がL O Mに対して組織改革を提案・支援します。
S D G s	【4・5・10・17】
政 策 手 法	<ul style="list-style-type: none"> ■組織改革推進の実施 組織改革とは「2 0代、女性会員の育成と拡大、業種別部会を設置しビジネスの側面からの拡大活動、各L O Mとブロックが業種別部会での密な情報共有とL O M毎に拡大会議の開催いばらきJ C宣言の改定」の4本柱で取り組むこととなります。 ■地域のリーダーとなる人財の育成事業の実施 2 0代、女性会員の意識を高めるために、J Cの本質である友情・修練・奉仕の三信条を再認識する研修事業を開催し、より高い意識でJ C運動に取り組むこととなります。 ■茨城ブロック協議会版業種別部会の設置の実施 業種別部会を設けビジネスや拡大につなげていくために、各L O Mから情報を吸い上げ部会と連携させることで、J Cに入会するハードルを下げるシステムを構築することになります。 ■県内各L O Mの拡大支援・協力および拡大に繋がる情報の共有の実施 会員拡大のために、理事長を中心に各L O Mと拡大会議を開催し、拡大状況やL O Mでの実践例や戦略の情報共有をすることで、効率化を図った拡大活動を展開することとなります。 ■いばらきJ C宣言の検証および改定の実施 より持続可能で魅力ある組織にしていくために、現行のいばらきJ C宣言を検証し、時代背景に合ったいばらきJ C宣言へと改定することで、社会の先頭を走る団体となります。 ■柔軟かつ開放的な組織改革を行うための事業の実施 日本J Cの組織改革会議と連携した内容をブロック協議会で取り入れて、柔軟かつ開放的な組織改革を行う事業を実施することとなります。
パ ー ト ナ ー	県内2 3 L O M、日本J C、J Cブランド確立委員会、S D G s 社会実現委員会、原忠信氏（筑波大学准教授）、県内の若者団体、県内の女性団体、政治・防災意識向上委員会